

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの基本理念は、開所時にスタッフ皆で話し合っで決めた。社会福祉法人グリーンコープの理念「共に生きる」と隔月で、毎朝の申し送りの際に唱和して、共有し実践に繋げている。利用者の対応で迷った時等は、理念に照らして振り返っている。	毎日朝礼で理念の唱和を行っています。職員は日々のケアの中で、利用者への笑顔、目線、声かけなどに配慮しており、気づいたこと、気になることについては都度話し合いが行われています。	今後も継続していかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。新型コロナ感染対策の為に利用者の外出が出来ない状況で、地域との交流が出来ず、皆で知恵を出し合っている。	コロナ禍にあって、以前のような地域との交流は控えています。毎年行われているチューリップの球根の植え付けは、地域の方に協力していただくことができました。	テレビ電話などリモートでの新たな交流の方法手段を検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンを通じて、認知症への理解と、予防の体操など実施していたが、新型コロナ感染予防のために中止している。台風の際は、避難の問い合わせが有り、避難の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推薦会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂き、職場会議で、皆で検討し実行している。	会議では地域の高齢者の困りごとの相談などもあがっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	運営推進会議に市の担当者が参加しアドバイスを受けるほか、研修(現在はリモートで開催)などを通して良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学習を繰り返し、正しく理解しケアの実践が出来るようにしている。数年前迄は、昼間玄関の施錠をしていたが、現在は、玄関を施錠していないので、見守りには、十分気を付けている。	安全面に配慮しつつ拘束とならないようされています。スピーチロックにならないように職員の声かけ方には指導を行っています。睡眠導入剤服用の利用者に慎重に配慮してケアされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、自己チェックシート等を活用し研修を重ね虐待防止に努めている。身体拘束適正化検討委員会でも報告し毎回、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度の利用者が入居されていたので、成年後見人と連絡・相談していた。現在ははないが制度について研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議でも報告・相談し運営に反映されている。家族会では、アンケートを取り、要望については職員に周知した。意見箱も設置している。	利用者の写真を入れた通信を家族に送付して様子を知らせています。リハビリや、理美容などの対する要望には都度対応しています。	当事者だけでなく、そのほかの家族へも、出た要望や意見、対応したことと併せて報告することで、意見は言いやすくなるものです。表出の工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見や要望などノートに職員が記入している。職場会議で職員と話し合い、了承された事は反映されている。	職員の健康管理や業務の改善についての話し合いが行われています。利用者の高齢化に伴い介護度が上がり、業務が増えてきており、シフト時間の工夫が図られました。	ケア時間の確保は、サービスの質の確保と向上につながります。今後も管理者、職員が協力して取り組まれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表は月1～2回の本部での会議やズームでの会議について管理者から報告し職場会議で話し合い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、年間研修計画をたてて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告・研修を行い職員で共有している。介護福祉士修得に向け受験対策を本部にて開催。受験料・交通費の助成制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ加入し、研修会など参加し、情報交換を行っていたが、新型コロナウイルス感染予防のため研修ができていないが、資料等にて共有している。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。7月の災害時には市内のグループホームへ災害支援物資を届けたり、清掃支援を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話しも併せて、これまでの生活習慣や馴染みの物を聞きだし、自宅に居るような雰囲気近づける様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の思いがケアに活かせるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯物たたみ、テーブル拭き等、家族の一員として、毎日行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会で来訪された際は、ホームでの様子を伝えている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時には「ほのか便り」と併せ職員の手書きのお便り(近況報告)を配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院や、ご近所への散歩と近くの神社への参拝、ドライブをしていたが、新型コロナ感染予防の為に、外出等を見合わせている。若い頃の話などを聞いて思い出して頂けるように努めている。	以前は、地域の方や友人の訪問などありましたが、新型コロナ感染予防の観点から、家族のみ玄関にて距離を保っての面会を行っています。	家族の協力を得ながら動画撮影やリモート面会をすることで、関係の継続を支援する工夫を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの生活を大切にしながら、男性が3名なので、座る位置の配慮や落ち着いた日常生活が送れる様に支援している。誕生会の際は、一緒にテーブルで歌ったり、お祝いの言葉をお願いしたり、皆さんの輪に入れる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や、ご家族が困っている時は、相談にのり他の施設の情報などを集めて、お知らせしている。看取りを行ったご家族より毎年チューリップの球根を寄付される。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、なにげなく話された言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	ケアマネジャーを中心に、職員ともに多方面からの情報収集し、共有することを心がけています。	利用者ごとの日々の記録はきめ細やかにされています。支援経過記録など、定期的な振り返り記録の充実を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていた場所・環境、暮らし方について家族や本人から情報を集めている。入居前の利用事業所や居宅介護支援事業所からも情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。	ケアマネジャーを中心に職員も参画して計画が作成されています。コロナ禍の現在は、家族の要望は電話などで確認されています。	リモートで実施することで、ケア担当者会議に家族の参加が可能になるのではないのでしょうか。より充実したケアにつながることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々々のニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々から情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い的確な病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療関係と連携を図っている。	かかりつけ医の受診を基本としています。本人や家族の状況に応じて、訪問診療へ移行しています。家族の要望により往療リハの受け入れも行っています。	検査結果のコピーを送付するなど、家族への報告をすることで、より安心感と信頼につながるのではないのでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職は、相談しながら個々の利用者が適切な受診や介護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院した際には、入院の手続きも職員が行い、入院中も頻繁に病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応についての指針を作成し、家族会にて説明している。ほのかでの看取りを希望される利用者には訪問診療に変更したりと医療と連携して利用者を最後まで支えている。	重度化指針を備えており、利用者本人、家族の意向を聴いています。最期を事業所で迎えたいという希望に応え、医療機関との連携を図りながら、看取りは年間1名程度行っています。	今後多様なニーズが出てくるかと思われます。可能な限り要望に応えていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の受講や避難訓練に参加し実践力を身に付ける様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに協力呼び掛けている。年2回消防訓練の実施し、毎回、セコム職員立ち合いの下、避難訓練、消火訓練を開催している。	定期的な訓練が実施されています。隣接のデイサービス事業所は、近隣の方の一時避難所としても利用されたことがあるそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には、敬語を使うように心がけている。居室に入る際は、利用者に声をかけて、入室している。	敬語を使うなど、言葉かけには配慮しています。「オムツ」という言葉を使わず「下着」と表現しています。高齢化に伴う利用者のペースに合わせてケアを行っています。	「人として尊重する」＝「丁寧に接する」ケアを継続していかれることをきたします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉かけに心がけている。利用者の自己選択、自己決定を大切にするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、一人ひとりに合った言葉かけを行ない、希望に添える様に、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分で出来る方には自由に使える環境を整えている。訪問美容の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気やに努め食べたいものがあれば、メニューに追加したり工夫している。利用者の能力に応じて、おやつ作りなどは、時々利用者と一緒にこなしている。	運営母体の生協のサービスを取り入れながら食事は提供されています。職員が担当する朝食の卵料理に関しては、本人の希望に応じています。職員の趣味や特技を活かし、お菓子や誕生ケーキなども準備されています。	食事の楽しみの向上として、独立の調理室を完備している利点を活かし、地域の飲食店を巻き込んでの新たなケータリング、食イベントなど取り組まれてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすしおろし・ミキサー食など工夫している。食が進まない方には、ゼリーやプリン、アイス、好みのパンやジュースなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じて昼間は、リハパンへ変更し、排泄時間に応じてトイレ誘導を行っている。	日中はほとんどの利用者に誘導による支援を行っています。夜間も約半数が誘導の支援を受けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、毎日朝、ヨーグルト・麦入りご飯・10時のおやつでは、きな粉入り牛乳を飲んで頂いている。便秘ぎの方には、バナナや乳酸菌飲料など食事による便秘予防やお腹のマッサージや体操なども行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、柚子や菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。便失禁のあった場合は入浴を促している。	5名は週3回、4名は週2回の入浴が支援されています。利用者の体力の低下に伴い、介助方法を変えて応じています。入浴剤を利用して香りでリラックスできるよう工夫されています。	香りなど個別の好みに応じるなど、より一人ひとりに寄り添った支援が行われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調整、布団干しなど行っている。シーツもこまめに洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・目的・用法・容量また病状に的变化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できる様にしている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は、利用者名・日付など声に出して確認して投薬し、飲み込まれるまで見守るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を利用者と一緒に行なったり、色々な行事などの時に挨拶をして頂いている。利用者の希望を聞いて、歌・風船バレーなど好きな事をして頂き、生き活きと暮らせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	街の中心地に位置するので、商店街の催しなど参加したり、紅葉・花見などドライブ・外食など企画し実施していたが、新型コロナの影響で遠方には外出できないが、状況が落ち着いたらドライブなど再開予定。	近隣の神社やアーケード商店街への外出を行っていましたが、新型コロナ感染拡大以降見合わせています。	敷地内の屋外に出るだけでも、利用者にとっては気分転換、五感への刺激となります。身近な資源を有効に活用されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、職員が預かっている。病院受診の時持参している。不安感のある利用者には、所持されているが、スタッフが必ず金額の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話したり、利用者より家族に電話をしたいと言われた時も、電話をかけて、お話をされている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね複数のご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁には季節感のある飾りを利用者と一緒に飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。加湿器や床暖房など使用して居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	(感染予防のため、タブレットで映像のみの確認ですが、)季節の花など飾られています。1時間ごとの換気では、利用者への声かけをしてから実施し、配慮しています。	感染予防のために換気の実施記録を残したり、寒さ対策として利用者個人専用のショールやひざ掛けを準備するなどの対策が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーや一人掛け椅子などその日の気分に応じて思い思いに過ごせる様に、ソファー等の設置場所を工夫している。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居る雰囲気大切に、馴染みの家具や身の回り品など置く様にしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室入り口扉には本人の好きな花や縁のもの写真の写真を貼って自室とわかる工夫がしてあります。自宅で愛用していた鏡台を持ち込んである部屋も確認できました。(タブレット映像での確認)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー廊下には手すりを設置。各居室の小窓にはその方に合ったイラストを貼っている。夜間トイレに迷わないようにトイレの電気は付けている。居室の整理整頓に心がけ転倒のない環境作りに工夫している。		